

日米欧共同によるプローブデータ 研究報告書の作成

(研究期間：平成25～27年度)



道路交通研究部 高度道路交通システム研究室
 室長 牧野 浩志 主任研究官 井坪 慎二 研究官 玉田 和也

(キーワード) プローブデータ、海外展開

1. はじめに

プローブ(probe)とは、探査、調査といった意味の語である。道路交通分野では走行する車に装備されている様々なセンサーから得られるデータ(プローブデータ)を外部的に取り出して、さらにこれらのデータを加工・分析することにより、広く道路交通分野のサービスに役立てている。我が国は、各自動車メーカーがカーナビの走行履歴データ(走行軌跡)を収集し各社の渋滞予測サービスなどに活用している。また、国土交通省では、ETC2.0サービスを通じて、走行履歴データ、挙動履歴データ(急ブレーキなどの急挙動)を収集し、渋滞箇所の特特定、事故多発箇所の評価などに活用している。

国土交通省、米国運輸省(US-DOT)と欧州委員会(EC)の3者は、協力覚書に基づき、長年にわたりITS(高度道路交通システム)に関する情報を共有してきている。この中で、プローブデータを優先分野の一つとして研究してきており、「プローブデータに関する日米欧共同研究評価報告書¹⁾」を作成し、2016年11月にUS-DOTホームページに公表された。プローブデータに関する共同研究は、当初は日米の2国間において実施し、2013年にも共同研究報告書を作成している²⁾³⁾。その後、欧州委員会も参画し、3者の共同研究を実施し、その研究成果を本報告書にとりまとめている。

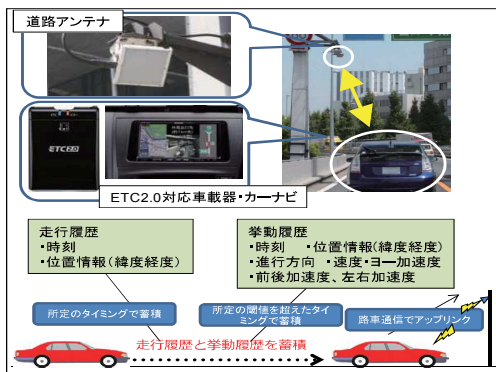


図-1 ETC2.0の概要

2. 報告書について

本報告書においては、プローブデータの定義、各国のプローブデータの状況、主な活用用途、優先活用用途、国際標準などの国際連携分野との関係、今後の展開について、日米欧のそれぞれの状況を172ページの資料としてまとめている。本資料は、英語で記述されUS-DOTのHPからダウンロードできることから、まだプローブシステムが配備されていない途上国等にも参考となるものとなっている。



図-2 共同研究報告書

3. おわりに

プローブデータは研究の段階から実配備と活用の段階に進みつつある。さらに円滑な自動運転のための先読み情報(例えば進行方向上の落下物など、車載センサーの検知範囲外の情報)の生成などにも活用が見込まれており、日米欧の協力関係も活用しながら、さらなる研究を進めていきたい。

詳細情報はこちら

- 1) US-DOT HP
http://ntl.bts.gov/lib/60000/60100/60123/FHWA-JPO-16-326_2.pdf
- 2) 国総研資料 No. 820
http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoutnn/tn_nilim.htm#900
- 3) US-DOT HP
http://ntl.bts.gov/lib/51000/51100/51168/US-JP_Probe_Data_Final_Report_v8_2_FHWA-JPO-13-091.pdf